

岡山県障害者（児）施設サービス自主評価結果（公表用）

施設名：ワークスひるぜん

施設所在地：岡山県真庭市蒜山上長田 2 3 0 0 - 1

施設種別：就労継続支援 B 型

運営主体：社会福祉法人 慶光会

管理者：東山 美子

評価月日：令和 5 年 3 月 1 7 日

| 評価項目（中項目） | 評価結果 |
|--------------------|--|
| I-1 理念・基本方針 | 評価：B 事業指針、倫理綱領についてはホームページやパンフレットに掲載し周知している。職員や利用者、保護者には説明を行っている。特に利用者への説明については、分かりやすく理解できるよう工夫している。 職員朝礼では日を定めて倫理綱領を読み上げ、支援の基本を日々確認している。 |
| I-2 計画策定 | 評価：B 事業計画において、施設が目指す課題や取り組みを具体的な目標として示している。 日々進捗状況を把握しながら定期的に振り返りを持つ中で、問題解決に取り組んでいる。 |
| I-3 管理者の責任とリーダーシップ | 評価：A 職員の意見を吸い上げ、見通しを持ちながら業務に当たることができるように取り組んでいる。職員が意見を出しやすい環境であることがチームとしての意識を高め業務を進められると考え、良好なコミュニケーションを図ることができる環境となるよう職員間の関係作りに努めた。 |
| II-1 経営状況の把握 | 評価：B 利用希望者については積極的に受け入れを行った。 生産活動においては、コスト意識を高められるよう会議等で分析を行っている。 その他、地域のニーズの情報収集のため、他機関と連携を図っている。 |
| II-2 人材の確保・養成 | 評価：B 法人の人事担当者が中心となり人材確保に取り組んでいる。また処遇改善等の取り組みにより、より安定的な人材確保に努めている。 部内研修において新任研修や、研修報告会を積極的に行い、専門性を高める取り組みを行っている。 |

| | |
|-----------------------|---|
| II-3 地域との交流と連携 | <p>評価：B</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響により地域との交流が難しい状況が続いた。地域交流としてのイベントである「地域ふれあい祭り」については規模を縮小し、法人内の事業所単位で開催し、外部の参加はなかった。地域への情報発信として慶光会だよりの発行は定期的に行われている。</p> |
| III-1 利用者本位の福祉サービス | <p>評価：B</p> <p>職員一人ひとりが意識的に取り組めるよう、事業所内で人権擁護や虐待に関しての意見交換等を行った。また法人としても、人権擁護、虐待防止について周知を行い、利用者が安心して主体的に活動できるような取り組みを行っている。</p> |
| III-2 サービスの質の確保 | <p>評価：B</p> <p>利用者個々に合わせた支援ができるよう、日々の朝礼や定期の支援員会議の中で利用者の情報共有を行い、職員が統一した支援ができるよう取り組んだ。必要に応じて関係機関を交えたケア会議にも参加し、方針を確認ながら支援を行っている。</p> |
| III-3 サービスの開始・継続 | <p>評価：B</p> <p>サービス開始の際には、契約書、重要事項説明書等の資料を提示し、分かりやすく丁寧に説明を行っている。事業所玄関には法人・事業所の概要を掲示している。</p> |
| IV-1 利用者に応じた個別支援プログラム | <p>評価：B</p> <p>地域生活支援センターの定期のモニタリングでの情報を基に、利用者、家族の要望などを確認後にアセスメントを行い、個別支援計画の作成、見直しを行っている。保護者とは、お知らせ・連絡ノート・電話・メールにて、確認や情報共有を行っている。</p> |
| IV-2 日常生活支援サービス | <p>評価：B</p> <p>家庭やグループホームと連携を取りながら健康状態等を把握し、個別に合わせた支援を行っている。昼食については希望利用者へ法人内の管理栄養士が栄養バランス等を配慮し献立された弁当を提供している。作業のみではなく、学習会や食事会の企画を取り入れながら、利用者が気分転換できるような取り組みも行っている。</p> |
| V-1 生活環境の整備 | 非該当。 |
| VI-1 緊急時の対応 | <p>評価：B</p> <p>対応マニュアルは、全職員に配布・周知を図るとともに火災警報器付近に常設している。年2回の避難・通報・消火訓練を行い、消防署への報告を行っている。</p> |
| VII-1 就労意欲の醸成 | <p>評価：A</p> <p>利用者個々に合わせた作業に取り組めるよう、作業工程の細分化を図り、必要に応じ補助具の作成を行うなど工夫している。また作業が途切れる事のないよう、外部企業と細目に連絡調整を行っている。安定した作業提供が、作業参加と作業効率の向上につながっているように思われる。品質管理については、重点課題としてマニュアルを整備し、外部企業からの信頼性の向上に努めている。</p> |

* 着眼点の項目等を参考に、具体的な実施（達成）の状況や未実施の場合はその理由など、

評価における根拠とともに、今後の改善計画（方針）なども記載してください。

* 「VII-1 就労意欲の醸成」欄は、授産施設のみが該当します。